



『グローバル』人材」ということ

校長 吉田 亘

今の教育におけるキーワードは、グローバル人材の育成です。広く海外で活躍できる人材を育てることが求められているのです。そのために、国や都でも英語教育充実や海外留学の促進など様々な施策を行っています。そのような中で、現在の田高生の中にも、5名程留学中や留学から復学した生徒がいます。また、来年以降に留学を予定し、研修を受けるなど準備をしている生徒も何人かいます。さらに、今年度もドイツからの留学生が本校で学んでいます。異文化の中で、様々な挑戦をすることは、自分を大きく成長させることに繋がると思います。そして、この先、留学の経験を活かして社会人として活躍することを期待します。

しかし、グローバル人材の育成のためには、留学しなければ、英語ができなければだめなのでしょうか。最近参加したグローバル人材育成の全国研修会で、島根県の学校から、「本校では、『グローバル』というキーワードで、キャリア教育に取り組んでいる」という意見がありました。地方を支える中で、世界と関わることを目指す教育という意味だそうです。

先日、「江戸っ子1号」深海（7800m）探査成功というニュースが報道されたのはご存じですか。この「江戸っ子1号」は、葛飾区にある従業員5名のゴム工業の社長が呼びかけ、近隣の5つの中小企業を中心に芝浦工業大学、東京海洋大学等と連携して作り出した無人海底探査機です。日本には「しんかい6500」という有人探査機がありますが、さらに深い海底を安価な探査機で調査できるのは大変貴重です。世界にも深海探査機は少なく、これから開発をさらに進め海外にも売り込む予定だそうです。



（PJの公式HPより）江戸っ子1号(3機)



深海魚撮影(3D)に成功

地元大田区でも町工場を中心として、「下町ボブスレー」というプロジェクトを組み、ソチオリンピックでメダル獲得を目指しました。残念ながら時間が足りず、採用されるまでに至りませんでしたが、今後、国内大会等で実績を作り、次のピョンチャンオリンピック（韓国）に挑戦するようです。

これら以外にも技術を活かして世界を目指し、また、実際に利用されているものはたくさんあります。共通していることは、まず、それぞれの知識・技術が一流であること、アイディアがユニークであること、複数の技術をまとめあげる協調性や粘り強さが必要なことです。まさにそれぞれが「グローバル」の実践です。

これからの皆さんに必要なことは何かを示唆するヒントがここにあるように思います。高校時代にまず自分の得意なことを見つけてください。そのためには、失敗を恐れず、何でもやってみて、自分の興味関心を知ることです。自分自身を外から見る目を養ってください。そして、自分の能力を引き出して、将来に亘ってそれを磨き自分の専門性を確立することが大切です。それが、他の分野の様々な人々と繋がって、やがては、グローバルなものへと広がっていくのではないのでしょうか。

「細部に宿り給う」

副校長 野村 悟

前回の続きとなる。10月より毎土曜日に3、2年生を対象にした『現代文ゼミ』という講習を始めているが、その中で、「現代文読解のための鉄則」を受講生に伝授してきた。

武術でいうならば、皆伝に至る奥義のようなものである。結論から言うならば、それは以下の4点である。

- 1 キーワード
- 2 言換
- 3 対比
- 4 前後

一見すると何ら変哲もないようなターム（用語）である。しかしこれが、実に奥深い。例えば、ゼミ演習の中で、次のような問題を出した。まず、考えてほしい。

問題 図1からある漢字（1文字）が生じている。その漢字とは何か。

まずこの問題を初見する人は、じーっと見て考えてほしい。

.....

ヒント1 小学校1年生で習得する漢字である。

ヒント2 3画の漢字である。

ヒント3 図2から生じた文字一文字は……？



図1からだけではわからなくても、図2と対比させたならば、ぴんと閃いた人が多いはずである。

ゼミ内では、上記の演習を通じて、鉄則の3の対比ということから、鉄則の2言換について説明を行った。つまり具体的事象から抽象化を図るということを演習及び考察を通じて伝授したのである。ちなみに、その問題に付随して、漢字が考案されたのは、いつで、誰が、という問題についても考えてもらった。

漢字は、今から約5千年前、蒼頡と言う人物が鳥獣の足跡から考案したといわれている。紀元前3千年には、上記の漢字の原型が考案されていたのである。

（当時の日本はどのような歴史的な過程を歩んでいたのか……。日本史のテキストを開いてほしい。このように時間軸と空間軸についても常に言及している。）

更に、その蒼頡が考案したとされている漢字を、許慎という人物が『説文解字』という書籍を用いて、六種類に整理分類している。それが今日の漢和辞典の原型として現代に脈々と受け継がれていると言っているだろう。

大学学部1年次の「漢文学概論」の授業で、この漢字の奥深さについて初めて学んだ際には、その文化の壮大さに眩暈に似たような感覚を覚えたものである。

さて、話を元に戻す。まずは、一事に徹すること。ここで言うならば、現代文の読解で4種類の鉄則を使いこなすことである。

一見すると容易なようにみえるが、実はこれが難解である。しかしそのために、授業などにおいて反復練習があるのだ。自分の読解の癖を排除し、まずは原則に徹する。「細部に宿り給う」という言葉ある。まずは、平易と思われるような原則を実行することをすすめる。物事の本質は、次のステップであるエッセンスに繋がるはずである。そこから次の展望が開ける。

最後まで高い位置に標的を

進路指導部 相川 浩昭

寒さも一段と増してくると、いよいよ受験シーズンの到来を実感します。特に年明けの1月18・19日は、国公立の第一関門でもあるセンター試験があります。近年は同試験の成績を活用して、合否を決める私大も増加しており、今年度は本校でも160名を超える受験者が予定されています。

受験日が迫ってくると、迷いや焦りから不安となり、安全策をとりがちになるものです。つまり志望校をどんどん入試難易度の低い大学に下げて行き、浪人を回避しようとしてしまいます。しかし、それは得策でしょうか。

私の担当教科は世界史ですので、世界史を例にして述べてみたいと思います。

イタリアの政治思想家として有名な人物にマキャベリ（1469～1527）がいます。「政治目的の達成のためには

手段を選ぶべきでない」など、冷酷非道な権力論の持ち主と思われていますが、『君主論』では近代的な政治理論が展開されており、少々巷のイメージとは異なるようです。

それはさておき、彼は弓矢を例にとって政治目標への到達について述べています。良き射手は自分の能力をよく把握している。だから、自分の狙うところよりも高いところに標的を設定して矢を射る。なぜならば自分の矢が失速するのを計算に入れて射るからであり、真の標的にきちんと届かせるためであると。これを受験に置き換えれば、狙っている大学よりも入試の難易度が高いところに照準を合わせて勉強する。そうすることで、真の志望校に合格できる、とうことでしょう。

弓矢には飛距離に限界がありますが、受験では結果的に思いがけない成果が出たりするものです。ですから、志望校よりも難易度の高い大学に合わせて、最後まで努力を怠らず勉強すれば、その大学に受かる可能性も十分でてくるのです。難易度の高い大学に行くことが良い進路とはいいきれませんが、将来の進路についての選択肢が広がることは事実です。

安易な安全策は、時として不本意な進路を歩まなくてはならない結果ともなります。ぜひ、最後まであきらめず、上を目指して頑張ってください。

知らないが大変です

生活指導部 荻原 秀明

道路交通法改訂！知らないが大変です。

田高では、約 300 人が自転車通学をしています。ヘッドホーンや携帯電話を使用しながらの運転、雨の日に傘を差しながらの運転は禁止されています。今年の 12 月 1 日(日)に道路交通法がさらに改訂されました。自転車に関する改訂は、2 つあります。

1. 自転車の検査等に関する規定の新設

警察官は、基準に適合するブレーキを備えていない自転車が通行しているときは、停止させてブレーキを検査できるようになりました。

さらに危険を防止するために必要な応急措置を命じ、応急措置では必要な整備ができない場合は、その自転車を運転しないよう命じることができるようになりました。また、これらの命令に違反した者に対する罰則も整備されました。

検査拒否等、応急措置命令等違反は、5 万円以下の罰金



ブレーキのない自転車に乗ってはいけません!

2. 軽車両の路側帯通行に関する規定の整備

道路に路側帯がある場合、自転車等の軽車両が通行できる路側帯は、道路の左側部分に設けられた路側帯に限ることとされました。

年末や年始にかけて、道路が混雑する事があります。慎重に自転車を運転して下さい。

路側帯の右側通行をした場合は、通行区分違反として、3 ヶ月以下の懲役又は 5 万円以下の罰金



3 年間で培われること

3 学年担任 高嶋 さとり

田高生として、そして高校生としての生活もあと僅かとなり、3 年生のあいだでは、この 2 年 8 ヶ月を振り返るような会話が多くなってきました。

私たち担任団もついこのあいだ、入学式の打ち合わせをした気がするのですが、最近は本当に時の流れのはやさを痛感しています。

この 3 年間、担任が 6 2 期生に培ってもらいたいと繰り返し伝えてきたことは、

- 1 自己を律し、主体的に行動すること
 - 2 学習には常に真剣に取り組むこと
 - 3 他者を受容しつつ、自分も大切にすること
- の以上 3 点です。

これから受験の生徒諸君は精神的にも肉体的にも一番厳しい時を迎えます。自己をコントロールしながら、学

びに取り組み続けることは並大抵なことではありません。

しかし、先ほど述べた3点がこの田高の生活で培われているのなら、必ずこの大きな山を登りきることが出来るはずだと信じています。

また、進路が決定している生徒は卒業までの期間、4月からの自分を鑑みて、やるべきことに取り組み、有意義な時間を送って欲しいと思います。

後で振り返ってみると、きっと懐かしい思い出になる高校生活。

残された大切な日々、どの生徒諸君も真摯な学びを継続し、かけがえのない友人たちとの時間を大切に過ごして欲しいと願っています。

修学旅行に向けて

2 学年担任 鈴木 純平

1月15日から3泊4日で九州（長崎、佐賀、福岡）に修学旅行に行きます。ぼろにあ祭では修学旅行委員会も一つの教室を借り、長崎の食・歴史・年中行事・歴史上の人物・地形・気候等について展示をしました。旅行委員が苦勞して作成した長崎市街の地形が一目でわかる模型は力作で、特に好評でした。

10月以降、ホームルームや総合的な学習の時間を利用し、着々と準備を進めています。修学旅行初日の長崎での平和教育に関連した班分けとホテルの部屋割り、二日目に行われる長崎自由行動の班分けや見学コース決め、三日目の体験学習（松浦地区）の班分けと民泊先の割り振りなど、各クラスの修学旅行委員は慌ただしい中、大活躍しています。

二日目の長崎自由行動についてはガイド本や地図とにらめっこをしながら、どこを見てまわるか決めている状況ですが、現地に行けば明るく洗練された街の様子に感動すること間違いのないと思います。修学旅行までもうすぐですが、体調を崩さぬよう、気をつけてほしいと思っています。

あっという間に時は過ぎ……その2

1 学年担任 有馬 聡

あっという間に時は流れ、今年も年末を迎えようとしています。

もはや旧聞に属する話ですが、11月16日に保護者会を実施し、約120名の方がご参加になりました。全体会では学校長の挨拶に続き、学年の概況、来年度の選択科目についての説明を申し上げました。その後、各クラスに分かれ茶話会が行われました。PTAの役員の皆様には茶菓の準備などをはじめとして、いろいろとお世話になりありがとうございます。おかげさまで各クラスとも和やかに懇談が行われ、ご家庭や学校でのお子様の様子など、有意義な情報の交換ができたのではないかと思います。

さて、12月10日に期末考査が終わりました。1学期の結果をふまえ、勉強方法等を改善し、それなりの結果を出した人もいますが、残念ながら結果を出せなかった人も少なからずいます。冬休みはさして長い休みではありませんが、生徒諸君には各教科の課題や1月9日に実施が予定されている課題テストに向けての勉強はもちろんのこと、2学期の学習内容の復習をしっかりと行っていただきたいと思います。また大晦日から元旦にかけては、去りゆく今年を振り返り、また新しい年を迎えるにあたり、われと我が身を省みて、自分の弱点を補い、長所を伸ばすためにはどうすればよいのか、そもそもどういった高校生活を送り、どのような将来を生きたいのか、といったことをゆっくりと考えてほしいと思います。

あっという間に時は過ぎます。何も勉強せず、何も考えないままに、気が付いたら冬休みが終わっていた、などということのないように、一日一日を大切に過ごすことができるようにと願います。

【編集後記】

副校長からゼミ生に出された問題ですが、さらにヒントをお出しすると、図1は「なよやかな肢体」を意味する「〇」という一文字（ヒト文字）、図2は「腕に力こぶができている人が田で仕事をしている姿」＝「□」という一文字（ヒト文字）です。もう分かりましたね。

ちなみに、女偏の漢字はたくさんありますが、男偏の漢字は存在しません。「𠂔る」（なぶる）という文字も実は女偏なのでした。（異体字は「𠂔」だそうです。）

編集者も、調べに調べ、いろいろと勉強させられました。